

会 議 録

1 会議名

第5回なおえつ うみまちアート実行委員会

2 議題（一般非公開）

(1) 事業報告について

(2) 決算見込みについて

(3) 意見交換

・取組の成果・課題について

・今後の方向性について

3 開催日時

令和3年10月22日（金）午前10時00分から12時00分まで

4 開催場所

直江津学びの交流館 多目的ホール

5 報道の数

6人

6 出席した者 氏名（敬称略）

・委員：新井康祐、五十嵐史帆、石川清春、笠原勇氣、川上宏、
久保田幸正、濱口剛、彦坂薫、三木公一、山田知治

・事務局：頸城自動車株式会社：小山祐子、株式会社良品計画：河村玲
企画政策部：池田浩、小林古径記念美術館：宮崎俊英

キュレーター：鈴木潤子

その他 頸城自動車株式会社、株式会社良品計画、上越市 職員

7 発言の内容

【海津係長】

・会議の開会を宣言。

【山田会長】

・開会にあたり挨拶。

(1) 事業報告について

【志賀参事】

- ・資料1「なおえつ うみまちアート 事業報告」に基づき、うみまちアートの開催概要や来場者状況、地域の取組等を報告。

【鈴木キュレーター】

- ・資料1に基づき、作家や作品、作家のうみまちアートに参加した所感について報告。
- ・作品の写真を主としたビジュアルブックについて説明。

【志賀参事】

- ・資料2「来場者アンケート 集計結果」に基づき、調査結果や所見を報告。

【山田会長】

- ・議題(1)について、意見及び質問を各委員に求めたが、特になかったため、次の議題へ進行。

(2) 決算見込みについて

【志賀参事】

- ・資料3「実行委員会決算見込(10月22日現在)」、資料「予算執行見込(実行委員限り)」に基づき、10月22日現在の歳入歳出状況について報告。

【五十嵐委員】

- ・巡回バスの支出科目を(4)の管理運営費ではなく、(3)のイベント費とした意図はあるか。

【志賀参事】

- ・特に意図はないが(4)の管理運営費よりは(3)のイベント費が適切と考えた。

【五十嵐委員】

- ・作家のイベントは、(3)のイベント費に含まれているのか。

【志賀参事】

- ・その通りである。

【五十嵐委員】

- ・ビジュアルブックの作成費は(1)の作品制作費に含まれているのか。

【志賀参事】

- ・その通りである。

【五十嵐委員】

- ・予算執行見込の(5)の広報費に記録誌作成があるが、ビジュアルブックとは異なるものなのか。

【志賀参事】

- ・その通りであり、ビジュアルブックと記録誌は別のものである。

【五十嵐委員】

- ・ビジュアルブックの発行者が実行委員会になっている。作家の作品という話と矛盾していないか。

【志賀参事】

- ・ビジュアルブックは、実行委員会からうみまちアートの参加作家である渡辺英司氏に依頼をして作成したものであり、編集・作成は作家だが、発行は実行委員会となる。

【五十嵐委員】

- ・発行者が実行委員会であれば、事前に内容について実行委員に確認すべきではなかったか。

【志賀参事】

- ・そこまで考えが至らなかった。お詫び申し上げる。

【鈴木キュレーター】

- ・私からもお詫び申し上げる。ビジュアルブックと記録集の整理としては、記録集は文字を中心とした事実の報告書であり、ビジュアルブックは作家のカタログや作品のビジュアルを中心にまとめたものである。

【五十嵐委員】

- ・今後支出科目の整理、ビジュアルブック等の発行部数や配布先等の報告が必要と思われる。

【志賀参事】

- ・支出科目については、今後あらためて整理する。
- ・ビジュアルブックの納品日は10月20日であり、500部が納品された。後日、配布先についても、実行委員の皆様へ報告するが、協賛企業へ配布するほか、公共施設等へ配付する予定である。

(3) 意見交換

[成果・課題について]

【志賀参事】

- ・資料「意見交換の内容（実行委員限り）」に基づき、委員の皆様からなおえつ うみまちアートの成果・課題について発言していただく際の視点を説明。

【彦坂委員】

- ・事業報告書は正確にできている。
- ・うみまちアートの事業実施により、一定の成果をあげられたと感じている。

【三木委員】

- ・当初は会期が長いと思っていたが、前半は詳細な事業内容を周知できなかったこともあり、結果的に会期が長くて良かった。
- ・うみまちアートを通して、直江津の歴史や文化、風土を表すことができたのではないか。思ったより会期中に地域内で様々な取り組みが活発に出てきた。自分自身としても、歩いてみて直江津には様々な歴史・文化があることを初めて知ることがあった。
- ・上越タイムスに毎日掲載された直江津全力取材を見て、市民にも直江津の魅力や歴史、文化や風土が伝わったのではないかと思う。
- ・また、県の立場では港湾管理者として、空間演出研究所が作成した「そらのみなと」の管理が素晴らしかった。荒天時の撤去等迅速かつ適切に対応いただいた。最後まで作品として残してもらった根性を評価したい。
- ・実行委員会の立ち上げが遅かった。ロゴマークの決定も7月中旬であった。早めに動ければ、より良かった。
- ・十日町市との連携はできなかったが、単独で頑張れたのは一つの成果である。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する特別警報が県から発出される中で、うみまちアートを開催できたことは衛生管理の点でも良かった。
- ・外部から言われたことだが、大地の芸術祭だと会期後に作品が残るが、うみまちアートでは残らないということでビジュアルブックは良い取組だと思う。ただ、事業費を考えればモニュメントのように残るものがあっても良かったと思う。

【久保田委員】

- ・大成功だった。目的を十分に達成できたと感じる。
- ・来場者にリストバンドを着用してもらった取組は、歩いていると受付済であることが分かって、コロナ禍であっても安心感があり、また、来場者であることが分かって、声をかけるきっかけになって良かった。自分自身知らない人とも話す機会になった。
- ・直江津地区は外から来た人が停めることができる駐車場が少なく、エルマールや屋台会館、水族館の駐車場に停める人が多かったため、そこを起点に回ることになっていたと思う。その中で巡回バスがあったのは良かった。
- ・地元のアート関係者や様々な団体のイベントが動き出したことが良かった。

【五十嵐委員】

- ・準備期間が短いなかで、ここまでできたのは良かった。
- ・アンケートの数が少ないため、参考にしづらいが、少なからず交流が生まれ、魅力を発見できたとの意見があり、一定程度目的を達成できたと思う。
- ・市民が主役になれるイベントがなく、作品制作サポートやボランティアなどお手伝いに留まってしまったように感じた。
- ・高田の人にとっては、市全体で実施しているイベントという意識はあまり感じなかった。広報のやり方はもっと工夫できたのではないか。
- ・広報では、統一したイメージでまちを飾ることにより、わくわくする感じが見られたのは良かった。
- ・イベント開催時期は、真夏はつらいので避けた方が良いのではないか。ただ学校行事もあるので、難しい面はある。
- ・うみまちアートにより、人が集まったことで、直江津でコロナ感染者が増えていると周囲の人に言われたこともある。一方で、実施していたコロナ対策をより強化するこ

とは難しかったとも思う。

【石川委員】

- ・アートによるまちおこしイベントは老若男女が見に行くことができていると思う。
- ・上越市は北川フラム氏の出身地であり、大地の芸術祭を見に行っている人が多いことから、うみまちアートはやや物足りない面もあったのではないかと。大地の芸術祭と連携していた場合は、むしろ比較されて厳しい評価になったかもしれない。

【笠原委員】

- ・周囲の話としては、うみまちアートに対して良い印象を持つ人が多かった。
- ・直江津小学校で鈴木キュレーターによる特別授業していただいて良かったと感じている。
- ・まちなかでリストバンドを見ると嬉しかった。また、会期後半では、夕方に海の作品を撮影すると思われるカメラを持った人が駅から出てくるのを見かけることが多かった。
- ・地元のアーティストの作品も見られるとより良かった。
- ・安国寺通り特設会場は扇屋にゆかりのある人から久しぶりに内部を見ることができて嬉しいとの声があり、空き店舗や残った建物の改装が市民へ良い印象与えた。
- ・広報においては、公式ホームページの立ち上がり更新が非常に遅かった。土日・夜中問わず、ホームページの更新は実施されるべきである。
- ・夏は暑くて歩けないとの意見も知人からあった。
- ・その他、もらった意見は別途まとめて事務局へ渡す予定である。

【川上委員】

- ・はじめは出遅れた雰囲気があったが、良い印象でうみまちアートの会期を終えることができた。様々な方から参画いただき、当初の目的は達成したと思う。
- ・知り合いの話だが、改めて地域の良さを感じることができた作品もあったが、一方でわからないという作品もあった。1回見たら、2回目は見に行かないのではないかとということであった。
- ・事業の実施エリアが狭かったとも感じており、また、もう少し会場数を増やしても良かった。
- ・商店街からは、会期中はお店の客層が変わったとの評価もあることから、今後、事業評価や経済評価だけでなく、地域の声を聴くためのアンケートを実施してほしい。

【濱口副会長】

- ・うみまちアートは大成功だと感じた。
- ・美術協会では、美術作品と市民との接点をつくるため、作品を貸出しし、高田のショーウインドに展示してもらっているが、好評を得ている。巡回展をしたいとの話が出ており、直江津でも実施することになった。このように直江津で実施した取組を直江津地区以外でも実施できると良いのではないかと。
- ・うみまちアートの一環で、地元のグループとつながりを持った取組を進め、市の文化度を高めていきたい。
- ・公の施設を作るときは、施設の中に展示物が置けるような無駄遣いできるスペースを確保せよと言われてきた。例えば、談話室やロビーなどであるが、これらが無駄遣いのようにみえて、後の魅力になり、まちの文化度を高めることが多かった。今回のうみま

ちアートはその本質を突き、大成功だったと思う。

【山田会長】

- ・8月は天気が良かったが、集客は良くなかった。一方で、9月は天候が良くなかったものの、スタンプラリーと連動した商品券の配布に取り組んだ結果、来場者数が伸びたと感じている。
- ・直江津を含め、上越市の文化度はまだ100%ではない。ブランコのように少しの揺れを少しずつ大きくしていくことが大切である。
- ・直江津のまち全部を美術館と見立てられる取組ができれば、他のまちよりも魅力的になるのではないかと。今回のうみまちアートはその第一歩になったと考えている。

【新井副会長】

- ・コロナ禍の中、うみまちアートをよく始めたと思っている。
- ・自分自身を含めた商店連合会の方々は、現代アートのことはよくわからなかったが、直江津地区のみんなで現代アートのことを少しずつ話し合っ理解を深めていく必要があると感じた。
- ・海の作品を見に行ったときに、歩いている人から直江津全体が現代アートであると言われた。
そういった魅力を直江津の方から発信していかないといけない。
- ・スタンプラリー達成者に500円商品券を配布する取組には50店舗が参加しており、最大で1件30万円の換金があったが、実際には商品券の3~5倍の売り上げがあったと思われる。
- ・個人的には、初日に安国寺通り特設会場で食べたかき氷が、冬の景色をイメージしていると作家に言われたのが印象的だった。
- ・まちづくり活性化協議会の取組でうみまちアートに関わった人も多数いたので、資料に記載してほしい。

[今後の方向性について]

【志賀参事】

- ・資料「意見交換の内容（実行委員限り）」に基づき、委員の皆様からなおえつ うみまちアートの今後の方向性について発言していただく際の視点を説明。

【川上委員】

- ・是非何らかの形でうみまちアートを継続すべきだと思う。体制・予算については知恵を出し、地域と話し合いをしながら、開催地は直江津で継続していけたら良いと考える。
- ・今年の剰余金を次年度へ繰越すことができると良い。

【笠原委員】

- ・規模は縮小してでも引き続き来年何かを実施したい。
- ・大きくアートで括ればなんでも良いのではないかと。祇園祭も文化のひとつでアートととらえることができる。今後は、今回のように大々的でない場合でも、うみまちアート

を様々なイベントと連動させながら開催することができれば、次の大きなものに繋がっていくのではないかと。

【石川委員】

- ・糸魚川市教育委員会に出向していた平成30年に、新規の取組として「うみまち芸術祭」という提案をしたことがある。具体的には、上越地域周辺の大学生のアートコンテストや展示会をしたらどうかと提案した。同じように大学生と協働で実施してはどうか。大学生はアマチュアであるため、経費も抑えられる。
- ・学生が作品制作でまちに滞在したら、消費者になって飲食店などがにぎわう、さらには、学生の友人や家族もまちを訪れることが期待される。

【五十嵐委員】

- ・継続しないよりは今後も継続したほうが良い。
- ・金額や労力を考えたときに適切だったかは考えないといけない。特に予算の部分は精査が必要かと思う。
- ・今回は地元が主役になるものが見えなかったもので、今後は、地元を主役に据えながら、直江津の文化を見せられるような事業になると良い。

【久保田委員】

- ・実施時期については、8月頭から9月末で良いと思う。その時期の上越市内は、観蓮会や謙信公祭が開催されているため、市全体を巻き込んだ取組にできるのではないかと。
- ・学生単独で展示会などをすることがあるが、これらのイベントをうみまちアートの中に取り込んでも良いのではないかと。
- ・うみまちアートを通して、地域の様々な団体も火が付き始めた。今後もうみまちアートを継続してほしい。

【三木委員】

- ・うみまちアートを通して、地域で様々な動きが出てきたことは大きな成果である。
- ・何かしらの継続は必要である。誰が実施するというよりは、市民や芸術関係の団体など実施したい人が手を挙げて、行政が支援する形が良いのではないかと。
- ・事業費として7千万円をかけてもたらしたものは何か、作品として残るわけではないため、効果の判定は地域の意見も聴いた上で議論する必要があるのではないかと。
- ・たくさんの方が集まる仕掛けを考える必要がある。

【彦坂委員】

- ・直江津はいいところもあるが不足している部分もある。
- ・スタンプラリーの達成者に商品券を配布するようになってから、まちに人が出てきたということが何を示しているのか考えてほしい。建前論のイベントでは人は集まらない。

【新井副会長】

- ・7千万円という予算は今後見込めないのではないかと。ただ、できれば数年おきでも開催していただきたい。
- ・学生をイベントに取り入れるのは賛成である。
- ・他の民間団体への委託は厳しいと感じるため、できれば行政が主となって実施するこ

とをお願いしたい。

- ・開催地については、できれば直江津としていただきたい。

【山田会長】

- ・直江津のまちに芸術を取り入れたのは斬新であることから、今後も直江津でやっていくべきだと考える。文化度が上がったのも確かであり、ここでやめるのはもったいないと感じる。継続して開催することで、長期的に文化度を上げていくことができれば良い。
- ・芸術の専門家も素人も、併せて参加することにより、現代アートのすそ野を広げることにつながると思う。

【濱口副会長】

- ・趣味や趣向は様々であり、そういった人が個々にイベントを開催しつつも、全体としてまとまりができるが良い。
- ・現代アートのイベント実施にとどまらず、芸術関係のイベント情報をまとめて発信できるような組織ができると良い。

【笠原委員】

- ・うみまちアート会期終了後のロゴマークの取扱いはどうなるのか。

【志賀参事】

- ・現状は考えていない。うみまちアートの今後の方向性によって、取扱いが変わると思われる。

【笠原委員】

- ・これから実施するイベント等で使用可能であれば、今後実施するまでの間もPRできるのではないか。
- ・著作権はどうなるのか。

【志賀参事】

- ・著作権は実行委員会となるが、念のためロゴを作成した株式会社日本デザインセンターに確認する。

その他の連絡事項

【海津係長】

- ・未精算分を支払い終了後、川上委員と久保田委員から監査を実施していただき、監査後に確定した決算書を各実行委員に配布する予定である。
- ・今回の実行委員会が出た意見を踏まえた事業報告書を作成し、各実行委員に配布する予定である。
- ・次回の実行委員会の開催については、後日連絡する。

【池田部長】

- ・閉会にあたり事務局代表として挨拶させていただく。
- ・今回の実行委員会で委員の皆様から、予算の問題や作品が東京目線ではないかということなど、検証に必要な様々な意見をいただいた。一方で、事務局としては、うみまちアートをやってみて初めて分かったことがたくさんあった。皆様からいただいた意見をヒントとして、定量的な効果だけでなく、定性的な効果である社会教育的効果、人的交流などを整理して、皆様に報告したい。
- ・事務局としてうみまちアートの目的を達するために、様々な形で力を尽くしてきたが、委員の皆様には、側面的な応援をいただいた。あらためて感謝申し上げる。

【海津係長】

- ・会議の閉会を宣言。